

財産を関係機関と共に伸ばし、組織同士の連携や情報交換も進めたい。参加型の取り組みで皆の関わる機会を作り、仲間を増やしたい。

【光徳・野口】『元氣な地域』。地域の方はずっと元気でいてほしい。自分たちの活動で、元気を広め、健康づくりやわくわくする気持ちを持ってもらいたい。

トーク② 取り組みを広げるには

【逢坂・小林】課題は参加側と運営側のメンバーの固定化。様々な情報発信をしているが、やりたい人だけがやっていることと受け取られる。思いがある人、提案したい人も一緒にやっていきたい。

【高麗・山根】(固定化は)かあら山も設立2年目ぐらいからの悩み。細く長くはつながるが、利用者は増えない状況なので解決策や知恵がほしい。

【庄内・中原】ホームページを開設し、新たな活動に力を入れた。誰でも活動に参加できる枠を設け、気軽に来れる状況ができた。口コミの影響は大きいと感じる。

【下中山・西本】運営を安定させるためには常連は必要。常連で組織の土台を固めた。次の段階で、全体に広げる。気軽に誰でもいつでも立ち

寄れることを意識したい。新企画は、人と人が出会って、自然発生的に生まれる。間に立つ役割と仕掛けを考えたい。

【大山・馬田】自主組織が全部してしまおうと関わる人は増えない。活動団体を支援する役割である。

【御来屋・島田】年に2回の夕食会は、お手伝いを募集して実施する。親子参加が多く、また、活動を理解してもらえない。興味を持ってもらいたい。

【名和・大見謝】20〜30代も集まってほしい。来ない理由は、まちづくりって、格好良くないとか堅そうとか。デザインを意識し、女性視点など参考にして発信している。いろいろな関わり方の選択肢を増やして参加を促したい。

【上中山・奥田】先日は、メイクサロ



▲いい地域ってどんな地域？

ンを実施し、若いお母さんが地区内外からたくさん来た。若い人の興味を引く取り組みが大切。

【光徳・野口】福祉施設、地元事業者、企業等と手を組めば広がりが出る可能性はある。

トーク③ 収益事業について

【高麗・山根】食事を提供しているが収益は上がらない。

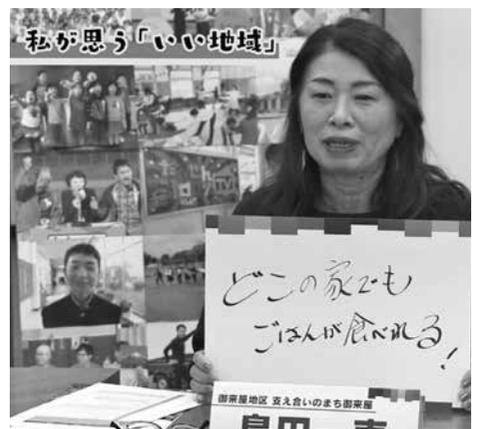
【大山・馬田】商売ではなく、地域の方のより良い暮らしの支援が活動。収入を増やすことは難しい。

【下中山・西本】行政サービスは収益のためではない。自主組織の活動でも同様。県外町外から財源を得て、町内の人に還元したい。できる部分は自分たちでやろうという意識が大切。

【名和・大見謝】農家も多い地域なので商品開発で自主財源をつくりたい。

【逢坂・小林】拠点のカフェでは、低料金での提供が自主組織の役割。収益事業はやりたい人がやればいい。農林水産業、商工業、観光等、支援団体がある分野で収益が上げればまちは活気づく。まちづくりはそのスタートアップの役割までがちょうどいい。

【光徳・野口】自分たちが将来の種をまいているんだと誇れる活動であり



▲何でも言い合えるアットホームな地域に

たいし、もっとたくさんの人に浸透させたい。町内すべてを町民みんなで輝かせましょう。

《企画課から》

地域が賑わっている状態は、みんなが楽しいと感じている時です。その楽しい活動ができる場が地域自主組織の一つの側面であり、継続できる秘訣も「楽しい」というキーワードに集約されると考えます。みんな繋がり、関係性を育み活動することで、困り事や課題の解決にも繋がっていきます。若い世代も誰もが関わることができ、小さな繋がりが大きな繋がりを生み、様々なことが展開されれば、大山町は更にいい町となるはずですよ。

◆問い合わせ先 企画課

☎0859・54・5202